

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和5年2月1日

事業所名 児童発達支援センター ころころ遊園

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	4	0	利用定員に対し十分な支援スペースを確保している。	
	2	職員の配置数は適切である	4	0	必要以上の配置を行っている。	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	3	1	・全館バリアフリーである。 ・写真や絵カードを使用した予定表等で配慮している。	・遊具や掲示物等、利用者の意識が散漫してしまうような場所もあるため、適切な環境を整備していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	3	1	支援前に活動スペースの清掃を行っている。	長期休み期間等、支援前の清掃を行うことが出来ない日もあった為、支援後に清掃を行う等、常に清潔な環境で気持ちよく過ごせるよう留意していく。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	1	時間を見つけて話し合いを行っている。	まとまった話し合いの時間が取れない為、話し合いの他、ミーティングノートを活用していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	1		平成30年度より実施している
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1		平成30年度より実施している
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	2		以前行ったことはあるが、今年度は行わず、今後も実施を検討していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	4	0		県や社協主催の研修に参加している。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	4	0		
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	1	年1回、既定のアセスメントシート(プロフィール兼)に記入をお願いしている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3	1	ガイドラインに合わせて適切に作成している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	4	0	計画に基づいて支援を行っている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	4	0	職員間でアイデアを出し合いつつ立案している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	1	年間予定を立て、季節に合わせた活動も取り入れている。	コロナ禍も影響し、季節の活動も以前より少なくなっている。ウィズコロナを意識し、安全に配慮しつつ様々なプログラムを組み合わせていく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	4	0	適切に作成している。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	4	0	短時間ではあるが、毎日ミーティングを行っているから支援に入っている。足りない所はミーティングノートで補っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	2	2		送迎業務やケース記録の記入等の事務作業、勤務時間の違いの為、全員揃っての打ち合わせは難しい。ミーティングノートや次の日の朝ミーティングを活用しつつも、退勤前に簡単な振り返りを行うことが出来るようにしたい。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	4	0	丁寧な記録を全支援者が心掛けている。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	4	0	適切に判断している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	1	児発管もしくは担当支援者が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	4	0	担当者会議の開催や市の保健師と連携しながら支援している	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている				現在該当する利用者はいない
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている				現在該当する利用者はいない
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	4	0	必要に応じて、お互いに見学をしながら情報共有を行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	1		相談支援事業所を通して行うこともあるが、こちらから積極的に行うことはない。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	1		今年度はコロナ禍の為、毎年行っていたセンター職員派遣研修は行わず。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	4		幼保施設を併用している利用児が多く、あえて機会は設定していない。必要性があれば検討していく。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等積極的に参加している	4	0		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	4	0	連絡帳への記入や送迎時に口頭で情報共有を行っている。	
31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレントトレーニング等)の支援を行っている	3	1	ペアレントメンターによるサポートファイル講座や懇談会、発達支援セミナーを行っている。		
32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	4	0	契約時や規程の改定時等に行っている。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	4	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	4	0	すぐに判断出来ない相談に対しては、園長や相談支援員とも話をしつつ返答している。	コロナ禍の為、外部の先生にお願いする共育相談は行うことが出来なかった。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	4		保護者への負担を考え、保護者会等は組織していない。要望があれば検討する。コロナが落ち着いた際には親子行事等を再開させたい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	4	0	適切に対応している。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	3	1	事業所だよりを年3回発行している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	3	1		施錠できるキャビネットを利用する等、流出等無いように管理をしている。
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4	0	写真や絵カード、ジェスチャー等の視覚支援等を行っている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	4		併設した成人事業所の作品展に参加することもあったが、今年度はコロナ禍の為、行わず。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	1	保護者へは契約時にお伝えしており、少しずつ周知されてきている。	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	0	月に1度、避難訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	4	0	事前のアセスメントで必ず確認するようにしている。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	0	アセスメント時にアレルギーの有無について確認している。	アセスメント時に確認しているが、医師から指示書が出ていることは無い。発作時の対応は保護者からの聞き取りのみ。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	4	0	全職員が閲覧可能な場所に保管している。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	1		虐待についての研修はタイミングが合わずに参加できなかった。法人内の権利擁護委員が受けた研修の情報をもらうことがある。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	3	1		車イス等の身体拘束を行う利用児はいない。パニック時等で身体拘束を行う可能性のある利用児に対しては、保護者に口頭で伝え、同意をいただいている。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。